

◆相楽郡の健康な生活に役立つ情報を発信します◆

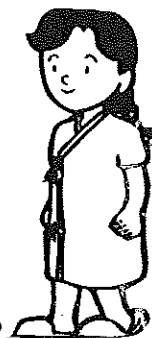
相楽医師会だより ①7

● 17号 平成20年8月発行 ● 社団法人 相楽医師会
● 京都府相楽郡精華町乾谷金堀3-2 JA京都やましろ山田荘事務所2階
● URL/http://www.souraku.kyoto.med.or.jp

乳がんについて

本邦での乳がんは増加傾向にあり、年間5万例程度と推計されています。乳がんは早期に全身転移を来しやすいので、早期発見のため検診受診と自己検診の励行が推奨されます。厚生労働省の指針変更(2004年:がん予防重点健康教育およびがん検診実施のための指針)により、2006年以降京都府下でも全市町村がマンモグラフィー併用検診(40歳以上、隔年受診)となっています。マンモグラフィーでは胸を板で挟むので検査時に痛みを伴いますが、検診精度はかなり向上しています(検診で見つかった乳がん症例の大部分は早期癌でした)。相楽郡では年間3000名が地域の乳がん検診を受診され、4-8%の方が二次検診を受けて頂いております。死亡率を低下させるには、さらに受診者数の増加が望まれますが、費用や人員などの問題も出てきています。

さて、公立山城病院は山城南地区で唯一の乳がん精密検査医療機関です(京都府全体で28施設)。当院には乳腺用超音波・マンモグラフィー(精中委認定施設)・マルチスライスCT・MRIなどが完備されており、精度の高い二次検診を受けていただけます。また、実際の乳がん症例を年間40例程度経験し、治療を実施しております。当地区での標準的乳がん治療(日本乳がん学会ガイドラインに準ずる)の確立を目指しておりますが、コストや年齢(高齢者)を考慮して、一人・一人治療方針を立てています。また、希望に応じて温存手術(60%以上)や術前化学療法を行っております。二次検診でなくても人間ドック・外科外来(予約制)受診の形で診療できますので、乳腺についてご心配がありましたら一度受診してみてください。
(公立山城病院 副院長
乳腺内分泌外科部長 中井一郎)



子宮がん検診

あなたは子宮癌検診を毎年受診していますか?子宮癌検診は安価で体への負担も少なく、高い確率で癌の存在を教えてくれる優れた検診制度です。子宮の癌は子宮の入り口にできる「子宮頸癌(けいがん)」と子宮の奥にできる「子宮体癌(たいがん)」に大別されますが、子宮癌検診は主に前者を対象にしています。この検診は1960年頃より始められ、当時は人口10万人あたり約20名の方がこの癌で命を落としていましたが、2004年の報告では四分の一に減少しています。これは癌にかかる患者数が減ったからではなく、癌検診により早期に発見される率が向上したため、早期治療により救われた患者数が増加したためです。

一方、子宮体癌については残念ながら定期健診によって死亡率が減少する等の効果は未だ十分には証明されていません。このように子宮頸癌の検診は大変有用であるにもかかわらず、日本の都市部での受診率はわずか十数%で、諸外国の80%に比べ、著しく低いのが現状です。また、近年、子宮頸癌については若年化が問題となっています。ここ20年間で、20代の進行癌は3.7倍に増加しているのをはじめ、30代の進行癌も明らかに増加しています。

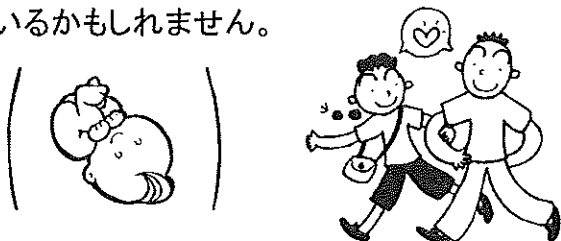
今後、全国の上診率の向上を目指すことはもちろん、癌に関心の薄い20~30代の女性層により多く受診してもらうことも重要な課題となってきました。これに伴い平成16年には厚生労働省より子宮癌検診の対象者が30歳から20歳以上に引き下げられました。その半面、検診が毎年ではなく、隔年に変更され、また子宮体癌検診は公費の対象からはずされることとなったのは残念なことです。子宮頸癌は早期発見が可能な癌です。「自分の身は自分で守る」ために、定期的に癌検診を受けるようにしていただければと思います。
(創愛会えくにくわはら産婦人科
小児科クリニック 江國豊)



～性感染症 (STD) について～

性感染症とは、性行為によって細菌やウイルスなどがうつっておこる病気のことです。10～20代の若い世代(特に女性)に多く、性交経験の低年齢化、複数のパートナー、コンドームをきちんと使っていないことなどが感染拡大の原因です。

最も多いのは性器クラミジア感染症で、女性の性感染症の60%を占めます。子宮の入り口に感染してまもない頃はおりものが増える程度ですが、子宮から卵管を通っておなかの中に広がると腹痛や発熱を起こします。炎症により卵管がつまってしまうと将来の不妊症や子宮外妊娠の原因になることもあります。妊娠中は流産や早産をおこしたり、出産時に産道で赤ちゃんに感染することもあります。感染していても症状のない人が女性の約70%、男性も約20%いて、自分でも知らない間にパートナーにうつしているかもしれません。



女性においてクラミジアに続くのは性器ヘルペス感染症で、外陰部に水ぶくれや湿疹ができてとても痛くなります。一度感染するとウイルスが体から消えることはないので再発することもありますし、これも母子感染の危険があります。

次に多いのは外陰部や膣内にいぼができる尖圭コンジローマで、HPVというウイルスが原因ですが、HPVは子宮頸癌の原因になるものもあります。日本で増えているHIV感染症/エイズも性感染症のひとつで、他の性感染症にかかっているとHIVもうつりやすくなります。HIVというウイルスは症状のない潜伏期間(感染力はあり)が何年もあって体内でウイルス量が増えるとエイズを発症します。現在は、潜伏期間中に感染を発見し治療を開始すればエイズを発症しないようにできるので、早期発見のために検査を受けることが大切です。

女性の場合、自分の体だけでなく将来の子供のことも考えて、危ない橋をわたらないようにし、不安があればまずは検査を受けるようにしましょう。

(下里医院 婦人科 下里千波)

第16回市民公開フォーラム きょうと健やか21in相楽

「知っておきたい脳卒中」

■日 時 平成20年9月27日(土) 午後14時00分～16時30分

■場 所 木津川市「いづみホール」

■参加費 無料(当日先着200名)

■プログラム 司会 山口泰司氏(山口医院)

松森篤史氏(松森内科医院)

◇ 「脳卒中にならないためには」

山口泰司氏 (山口医院)

◇ 「もしも脳卒中になったら」

狐野一葉氏(公立山城病院)

◇ 「在宅でのリハビリテーションについて」

前田幸一氏(公立山城病院)



相楽医師会からのお知らせ

- 4月から中学1年生・高校3年生の麻しん・風しんワクチン接種が始まりました。
- 予防接種は感染症予防の第1歩。接種時期を確認して忘れないように受けましょう。
- 年に一度は健康チェック。基本健診・がん検診を受けましょう。



受診の時には、保険証を忘れずに。